

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年10月31日

【四半期会計期間】 第94期第2四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

【会社名】 養命酒製造株式会社

【英訳名】 YOMEISHU SEIZO CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 塩澤 太郎

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区南平台町16番25号

【電話番号】 東京(3462)8111(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 管理本部長 田中 英雄

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区南平台町16番25号

【電話番号】 東京(3462)8111(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 管理本部長 田中 英雄

【縦覧に供する場所】 養命酒製造株式会社 大阪支店  
(大阪市福島区吉野4丁目24番11号)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄3丁目8番20号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第93期 第2四半期累計期間	第94期 第2四半期累計期間	第93期
会計期間		自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高	(千円)	5,781,146	5,537,107	11,640,674
経常利益	(千円)	250,604	855,255	1,049,171
四半期(当期)純利益	(千円)	159,388	368,264	705,928
持分法を適用した 場合の投資利益	(千円)	-	-	-
資本金	(千円)	1,650,000	1,650,000	1,650,000
発行済株式総数	(株)	33,000,000	33,000,000	33,000,000
純資産額	(千円)	29,481,107	30,012,309	29,976,385
総資産額	(千円)	32,261,346	32,782,205	32,445,832
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	5.30	12.26	23.49
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
1株当たり配当額	(円)	-	-	18.00
自己資本比率	(%)	91.4	91.6	92.4
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	218,423	826,715	1,297,911
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	108,936	115,950	1,102,357
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	538,340	538,778	540,653
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	2,745,579	3,001,319	2,829,333

回次		第93期 第2四半期会計期間	第94期 第2四半期会計期間
会計期間		自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	2.62	1.45

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
2 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。  
3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社に異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

#### (1)業績の状況

当第2四半期累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）におけるわが国経済は、東日本大震災の影響から一部に持ち直しの動きが見られたものの、電力供給不足など原子力発電所の事故による影響が長期化し、欧州債務問題や円高・株安の進行もあり、厳しい雇用情勢や個人消費の低迷等、先行き不透明な状況が続いております。

当社の関連業界におきましても、業種・業態を越えた企業間競争の激化や流通における再編、生活防衛意識の高まりによる生活者の節約志向が続く厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の中で、当社は、「生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する」という経営理念の下、当事業年度につきましては、「養命酒」をはじめ、前中期経営計画において基盤を構築した「ハーブの恵み」、「くらすわ」等の商品及び事業に経営資源を集中することとし、収益基盤の維持、確保に重点的に取り組みました。また、新規事業領域の拡大と成長性の確保や養命酒関連事業による安定的収益基盤の構築を主要戦略とする新たな中期経営計画につきましては、「持続的成長に向けた事業構造の変革」を基本方針とし、その諸施策の再検討と準備に取り組みました。

以上の結果、売上高は5,537百万円（前年同四半期比4.2%減）となりました。利益面では、「養命酒」と他の商品との広告費バランスを意識した計画的な販売促進活動の実施、諸経費の節減等を行い、営業利益は721百万円（前年同四半期比531.1%増）、経常利益は855百万円（前年同四半期比241.3%増）と新商品・新事業の基盤構築のために必要な費用を積極的に投入した前年同四半期と比較し増益となりました。また、四半期純利益は減損処理による投資有価証券評価損を計上し368百万円（前年同四半期比131.0%増）となりました。

セグメント別には、次のとおりであります。

#### 養命酒関連事業

養命酒関連事業につきましては、従来のチャネル別担当制からエリア別担当制へ変更し、営業活動の効率化に取り組むとともに、「養命酒」と他の商品との広告費バランスを意識した計画的な販売促進活動に努めました。

主力商品「養命酒」につきましては、テレビスポット広告や雑誌、新聞、ウェブ等の各種媒体の役割や訴求対象を明確にし、効率的な広告の実施や、広告と連動した店頭における販売促進活動を展開いたしました。また、東洋医学の考え方をもとに「7の倍数8の倍数」の節目となる年齢における養生をテーマとしたテレビスポット広告を実施し、主力購買層を対象とした雑誌、新聞をはじめとした印刷媒体やウェブ等により「養命酒」の商品理解の向上に努めました。

当社の生薬に関する知見と大正製薬株式会社のドリンク剤の開発力とを合わせ、平成21年9月より一部地域において先行販売をしてみいりましたミニドリンク剤「リオン」につきましては、パッケージをリニューアルし、商品名を「ハーブプラスHerb+」として本年9月から発売し、「養命酒」と合わせた効果的な店頭販売促進活動に着手しました。

海外におきましては、原子力発電所の事故による風評被害の影響が懸念される中、既存の東南アジア諸国を中心として各国の市場環境に即したマーケティング活動の展開に取り組み、効率的な販売促進活動を実施するとともに、「養命酒」の理解と知名度の向上に努めました。

「ハーブの恵み」につきましては、取扱店舗数の拡大に向けた店頭活動や試飲会、棚割提案による配荷促進に努めるとともに、各種イベントへの出展やキャンペーンの実施、大都市圏・戦略エリアに集中したテレビ、ラジオ、交通広告等によるプロモーションを実施いたしました。

以上の結果、「養命酒」の売上に「ハーブの恵み」、「家醸本みりん」、「ミネラルウォーター」、インターネット通信販売サイト「養命酒本舗」等の売上が合算いたしまして、養命酒関連事業の売上高は5,272百万円（前年同四半期比4.7%減）となりました。

#### 施設運営事業

「くらすわ」につきましては、生活者の皆様のニーズや季節に応じた商品・料理メニューの充実に努めるとともに、開業1周年イベントをはじめとした各種イベントを開催し、集客や地域への貢献に努めました。花火大会などにより観光客が多い夏季におきましては、諏訪湖畔にある「くらすわ」のロケーションを活かした観光客の取込みに注力いたしました。また、オリジナル商品の通信販売や小売店への卸売等、販売チャンネルにつきましてはその拡充に努めました。

以上の結果、「くらすわ」の売上に駒ヶ根工場見学施設「養命酒健康の森」の売上が合算いたしまして、施設運営事業の売上高は197百万円（前年同四半期比10.0%増）となりました。

#### その他

不動産賃貸事業の売上高は、本店ビルのテナント賃貸収入などにより、67百万円（前年同四半期比4.8%減）となりました。

## (2)財政状態の分析

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ336百万円増加し、32,782百万円となりました。これは主に減価償却により有形固定資産が245百万円減少した一方で、売掛金が307百万円、余剰資金の短期運用により有価証券が397百万円増加したことによるものであります。

負債は、前事業年度末に比べ300百万円増加し、2,769百万円となりました。これは主に未払法人税等が173百万円、流動負債のその他に含まれる未払費用が211百万円増加したことによるものであります。

純資産は、前事業年度末に比べ35百万円増加し、30,012百万円となりました。これは主に四半期純利益368百万円を計上した一方で、配当金540百万円の支払いにより利益剰余金が172百万円減少したこと、その他有価証券評価差額金が209百万円増加したことによるものであります。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ171百万円増加し、3,001百万円となりました。

営業活動の結果増加した資金は、826百万円（前年同四半期比278.5%増）となりました。これは主に税引前四半期純利益557百万円、減価償却費318百万円、売上債権の増加額307百万円、未払費用の増加額218百万円によるものであります。

投資活動の結果減少した資金は、115百万円（前年同四半期比6.4%増）となりました。これは主に定期預金の預入による支出（預入と払戻の純額）100百万円、有形固定資産の取得による支出51百万円によるものであります。

財務活動の結果減少した資金は538百万円（前年同四半期比0.1%増）となりました。これは主に配当金の支払によるものであります。

### (4) 研究開発活動

当第2四半期累計期間の研究開発費の総額は203百万円であります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	132,000,000
計	132,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 未現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年10月31日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	33,000,000	33,000,000	東京証券取引所 (市場第一部) 名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 は、1,000株で あります。
計	33,000,000	33,000,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日		33,000		1,650,000		404,986

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
大正製薬株式会社	東京都豊島区高田3-24-1	6,600	20.00
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	P.O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. (東京都中央区日本橋3-11-1)	2,549	7.72
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-5	1,487	4.50
株式会社八十二銀行	長野県長野市大字中御所字岡田178-8	1,300	3.94
トーア再保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台3-6-5	1,096	3.32
大同生命保険株式会社	大阪府大阪市西区江戸堀1-2-1	603	1.82
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	529	1.60
キッコーマン株式会社	千葉県野田市野田250	442	1.33
株式会社十八銀行	長崎県長崎市銅座町1-11	423	1.28
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	423	1.28
計		15,453	46.82

- (注) 1 上記日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の所有株式は、すべて信託業務に係る株式であります。
- 2 当社は、自己株式2,954千株(発行済株式総数に対する割合8.95%)を所有しております。
- 3 ファースト・イーグル・インベストメント・マネジメント・エルエルシーから、平成21年12月18日付で大量保有報告書(変更報告書)が提出され、平成21年12月15日現在で次のとおり株式を所有している旨の報告を受けておりますが、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
- なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
ファースト・イーグル・インベ ストメント・マネジメント・エ ルエルシー (First Eagle Investment Management, LLC)	アメリカ合衆国ニューヨーク州ニューヨーク 市アベニュー・オブ・ジ・アメリカズ1345 (1345 Avenue of the Americas, New York, NY 10105-4300 U.S.A.)	2,605	7.89

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,954,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 29,830,000	29,830	
単元未満株式	普通株式 216,000		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	33,000,000		
総株主の議決権		29,830	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式226株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 養命酒製造株式会社	東京都渋谷区南平台町 16 25	2,954,000		2,954,000	8.95
計		2,954,000		2,954,000	8.95

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	2.3%
売上高基準	0.8%
利益基準	0.6%
利益剰余金基準	0.2%

会社間項目の消去後の数値により算出しております。

1【四半期財務諸表】  
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,989,333	1,861,319
売掛金	2,046,741	2,353,880
有価証券	2,504,819	2,902,074
商品及び製品	360,990	348,347
仕掛品	204,874	183,220
原材料及び貯蔵品	403,565	376,610
その他	174,938	295,110
流動資産合計	7,685,263	8,320,562
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,935,104	3,818,335
その他(純額)	3,398,100	3,268,920
有形固定資産合計	7,333,204	7,087,255
無形固定資産	68,554	53,693
投資その他の資産		
投資有価証券	11,506,860	11,461,942
長期預金	3,900,000	3,900,000
その他	1,958,249	1,965,051
貸倒引当金	6,299	6,299
投資その他の資産合計	17,358,809	17,320,693
固定資産合計	24,760,569	24,461,642
資産合計	32,445,832	32,782,205
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	290,922	220,232
未払法人税等	10,568	184,449
賞与引当金	212,325	223,611
その他	932,828	1,136,002
流動負債合計	1,446,643	1,764,294
固定負債		
繰延税金負債	-	77,388
退職給付引当金	5,734	-
役員退職慰労引当金	50,850	48,350
その他	966,219	879,862
固定負債合計	1,022,803	1,005,601
負債合計	2,469,447	2,769,896

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,650,000	1,650,000
資本剰余金	676,680	676,680
利益剰余金	30,612,497	30,439,920
自己株式	2,881,662	2,882,390
株主資本合計	30,057,515	29,884,210
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	81,129	128,098
評価・換算差額等合計	81,129	128,098
純資産合計	29,976,385	30,012,309
負債純資産合計	32,445,832	32,782,205

(2)【四半期損益計算書】  
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	5,781,146	5,537,107
売上原価	1,960,102	1,871,640
売上総利益	3,821,043	3,665,466
販売費及び一般管理費	3,706,712	2,943,926
営業利益	114,331	721,539
営業外収益		
受取利息	27,024	26,323
受取配当金	100,895	101,850
その他	18,725	16,210
営業外収益合計	146,645	144,385
営業外費用		
支払利息	10,243	10,297
その他	128	372
営業外費用合計	10,372	10,669
経常利益	250,604	855,255
特別損失		
固定資産除却損	1,154	684
投資有価証券評価損	21,689	296,893
特別損失合計	22,843	297,578
税引前四半期純利益	227,760	557,677
法人税、住民税及び事業税	49,000	193,000
法人税等調整額	19,371	3,587
法人税等合計	68,371	189,412
四半期純利益	159,388	368,264

## (3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	227,760	557,677
減価償却費	398,959	318,122
賞与引当金の増減額（は減少）	4,450	11,286
退職給付引当金の増減額（は減少）	31,386	5,734
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	-	2,500
受取利息及び受取配当金	127,920	128,174
支払利息	10,243	10,297
有形固定資産除却損	1,154	684
投資有価証券評価損益（は益）	21,689	296,893
売上債権の増減額（は増加）	102,710	307,138
たな卸資産の増減額（は増加）	159,089	61,252
仕入債務の増減額（は減少）	52,850	70,690
未払費用の増減額（は減少）	225,047	218,659
未払消費税等の増減額（は減少）	44,789	26,073
その他	64,679	206,461
小計	263,541	728,101
利息及び配当金の受取額	135,148	136,609
利息の支払額	21,358	17,554
法人税等の支払額	158,907	20,442
営業活動によるキャッシュ・フロー	218,423	826,715
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	2,000,000	1,500,000
定期預金の払戻による収入	1,500,000	1,400,000
有価証券の償還による収入	1,500,000	500,000
有形固定資産の取得による支出	140,681	51,177
無形固定資産の取得による支出	4,893	-
投資有価証券の取得による支出	1,002,535	502,457
その他	39,173	37,684
投資活動によるキャッシュ・フロー	108,936	115,950
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	1,050,000	1,050,000
短期借入金の返済による支出	1,050,000	1,050,000
自己株式の取得による支出	293	727
配当金の支払額	538,047	538,051
財務活動によるキャッシュ・フロー	538,340	538,778
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	428,854	171,985
現金及び現金同等物の期首残高	3,174,433	2,829,333
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 2,745,579	1 3,001,319

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	
第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。	

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

前事業年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年9月30日)
1 偶発債務 保証債務 下記のとおり従業員の財産形成持家融資制度 による借入金に対し保証を行っております。 保証額 9,390千円	1 偶発債務 保証債務 下記のとおり従業員の財産形成持家融資制度 による借入金に対し保証を行っております。 保証額 8,835千円

(四半期損益計算書関係)

前第2四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
1 販売費及び一般管理費の主なもの 広告宣伝費 1,808,907 千円 退職給付費用 60,185 " 賞与引当金繰入額 137,394 " 減価償却費 147,847 "	1 販売費及び一般管理費の主なもの 広告宣伝費 1,216,856 千円 退職給付費用 66,458 " 賞与引当金繰入額 125,453 " 減価償却費 117,311 "

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年9月30日現在)	1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年9月30日現在)
現金及び預金勘定 2,075,579 千円	現金及び預金勘定 1,861,319 千円
有価証券勘定(譲渡性預金) 1,800,000 "	有価証券勘定(譲渡性預金) 1,900,000 "
預入期間が3ヶ月を超える定期預金 1,130,000 "	預入期間が3ヶ月を超える定期預金 760,000 "
現金及び現金同等物 2,745,579 千円	現金及び現金同等物 3,001,319 千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	540,876	18.00	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	540,841	18.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(持分法損益等)

関連会社がないため、記載しておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 損益計算書 計上額 (注)3
	養命酒関連 事業	施設運営 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,531,502	179,101	5,710,603	70,542	5,781,146		5,781,146
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	5,531,502	179,101	5,710,603	70,542	5,781,146		5,781,146
セグメント利益又は損 失( )	1,166,360	213,836	952,523	34,889	987,413	873,082	114,331

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業を含んでおります。  
 2 セグメント利益又は損失( )の調整額 873,082千円は、主に報告セグメントに配分していない一般管理費等の  
 全社費用であります。  
 3 セグメント利益又は損失( )は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 損益計算書 計上額 (注)3
	養命酒関連 事業	施設運営 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,272,945	197,039	5,469,984	67,123	5,537,107		5,537,107
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	5,272,945	197,039	5,469,984	67,123	5,537,107		5,537,107
セグメント利益又は損 失( )	1,663,882	124,529	1,539,353	33,244	1,572,597	851,057	721,539

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業を含んでおります。  
 2 セグメント利益又は損失( )の調整額 851,057千円は、主に報告セグメントに配分していない一般管理費等の  
 全社費用であります。  
 3 セグメント利益又は損失( )は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	5円30銭	12円26銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	159,388	368,264
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	159,388	368,264
普通株式の期中平均株式数(株)	30,048,538	30,046,020

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年10月31日

養命酒製造株式会社

取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中村和臣

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 松浦康雄

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている養命酒製造株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第94期事業年度の第2四半期会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、養命酒製造株式会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。